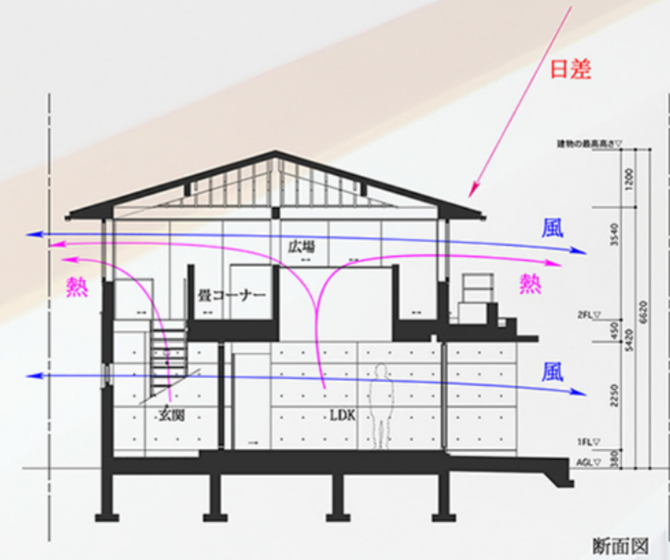
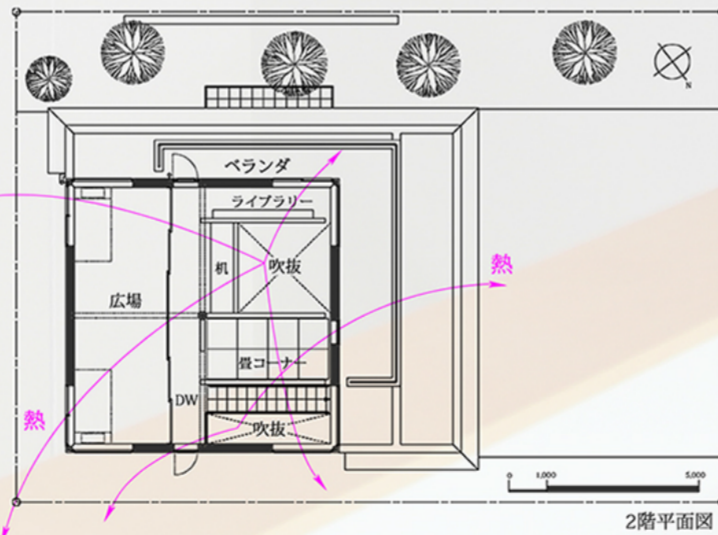
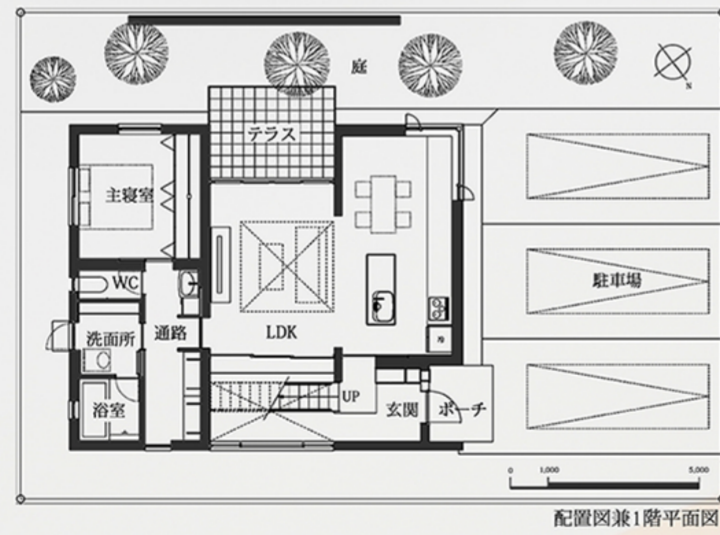


木の下のマテリアル

沖縄県の住宅街に計画した住宅である。沖縄県の建物はコンクリート造の建物が圧倒的に多く、全体の9割を優に超える。台風が多い事や、アメリカ文化の影響等がその理由にあたるが、この地域の暑さの中から生活を守るといふ点ではコンクリート造は十分な回答ではないのではないだろうか。本計画では1階をコンクリート、2階を木造で住宅を構成している。



熱のこもりやすいコンクリート造も、上部に木質空間がある事により、屋根からの日射熱の侵入を大幅に和らげられる。また、吹抜により上下階を繋ぐ事で、心地の良い上昇気流を生み、溜まった熱気を2階で廃熱している。2階はパッシブな通風を促すよう、積極的に開口部を、特に出隅部に設けた。木のもつ断熱・調湿・柔軟性は、熱環境の面でコンクリート造の弱点を和らげ、建物全体の快適な空気環境を構築・コントロールするよう働いている。また、2階の空間は大黒柱を中心としたシンプルでバランスの良い平・断面計画とする事で、木造部の、コンクリートに劣る剛性を高めている。コンクリートと木の特性を巧く引き出し合う事で、過酷な環境下でも十分に、また、ポジティブに快適な住まいを構成する事が出来たと考えている。

2階天井の木表し仕上げが、1階からの楽しい見上げ空間として作用している。コンクリートも打放しとし、素材感を強め、硬質な空間に木のもつ、軽やかさ、柔らかさが栄えている。

戦後沖縄では、木造建築の数が著しく減少した。ただ、人々の記憶の中には、かつて琉球文化を支えた木造建築群の記憶や、それを愛でる心が脈々と生き続けている。沖縄の風土、環境を考えると、木造建築普及の可能性は十分に広がっており、そのきっかけの1つになればと願い、計画し完成した1プロジェクトである。

